

今年で16年目となる山梨県内での環境保全イベントを開催 オルビス、「甲州市・オルビスの森」で植林作業を実施 荒廃した里山の再生を目指し、グループ社員ら約80名がボランティア参加

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:阿部嘉文)は、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を里山として再生する「甲州市・オルビスの森」プロジェクトの一環として、4月15日(土)に従業員ボランティア及び関係者約80名が植林活動を行いました。

オルビスは1987年の創業以来、常に事業活動における地球環境への負荷を意識し、環境に配慮した商品開発、サービスを心がけています。また2001年には社内に環境委員会を設置、2002年より現在まで継続して山梨県における社員参加型の環境ボランティアイベントを年2回、開催しています。



植えた苗木に添え木をするオルビス社員

今回は2012年に誕生した「甲州市・オルビスの森」で、約80名の従業員や家族、関係者が参加し、公益財団法人オイスカの協力のもと、造園業者の方々の指導を受けながら、ヤマザクラ、ソメイヨシノ、シヤラノキなど80本の苗木を植林しました。

「甲州市・オルビスの森」について

甲州市塩山上小田原の広さ約100ha(東京ドーム約21個分の広さ※)の市有林。公益財団法人オイスカの仲介により、オルビスと甲州市が同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結しました。オルビスは2012年度から10年間にわたって植林や間伐、下草刈りなどの整備を行い、人と森をつなぐ里山として再生させるプロジェクトを推進しています。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

オルビスの環境活動について

オルビスは1987年の創業当時より、事業活動において様々な環境負荷低減の取り組みを行っています。2002年からは公益財団法人オイスカ、行政と協働で、山梨県内における環境保全活動を開始。これまでに甲府市「武田の杜」の森林整備(2002~2013年)、鳴沢村富士山麓での「富士山の森づくり」プロジェクト(2007年~)で、毎年春と夏の年2回、多くの従業員がボランティア参加してきました。「武田の杜」での活動は、その継続的な取り組みに対して、2006年及び2014年の2度に渡り山梨県知事より感謝状が授与されています。

また海外においても同じくオイスカの「子供の森」計画に賛同し2002年よりフィジー共和国への支援を開始、現在も継続しています。

JR塩山駅に「甲州市・オルビスの森」の間伐材を使ったベンチを設置

JR東日本と甲州市は、4月28日より、リニューアルオープンしたJR塩山駅構内に「甲州市・オルビスの森」の間伐材(木の生育を助けたり採光をよくしたりするために伐採された木材)を利用したベンチを設置しています。間伐とは、込みすぎた立ち木を一部抜き刈りすることで、十分な光や栄養が一本一本の木々に行き渡るようにするという目的で行われ、森林全体を育てていくために、大変重要なメンテナンス作業の一つです。オルビスでは2014年より、間伐作業も里山再生のプログラムに加えました。

オルビスでは環境への取り組みを専用サイトでご紹介しています。
是非こちらもご覧ください。

<http://corp.orbis.co.jp/csreco/>

【本件に関するお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
Tel 03-3563-5540/Fax 03-3563-5543